87. おおまち商店街アーケード演出照明

三原喜八郎 加藤隆 澤田晴委智郎 柴崎茂 佐々木一郎 湯座文男 釜谷亜紀子
(おおまち商店街振興組合) (株)澤田造景研究所 一級建築士事務所 (東芝ライテック株式会社)

1. はじめに

青葉区一番町三丁目地区は、仙台のショッピングの中心街として長い歴史と伝統を持つ商店が軒を連ね、中でも「おおまち商店街」は400年間も同一の町名を継承する代表的な商店街である。

商店街の東西アトリウム(頭上約6m)には光と音を連動させたオブジェ照明が施され、華麗な光の空間演出で、訪れる人々に好印象を与えている。

今回、そのオブジェの演出照明計画について報告する。

2. オブジェ演出照明コンセプトと照明設備

東側オブジェ「杜の光と音のプリズム」は、仙台の「樺」をモチーフにしたステンドグラスとパイプオルガンと光で構成され、四季の変化を光と音で表現する。

日差しが次第に暖くなり花咲く「春」、(写真1) 樺が芽吹き葉が生い茂る「夏」、葉が徐々に色づき紅葉に染まる「秋」、舞い降りる雪の中に佇む樺が積雪に映える「冬」を調光により演出する。

これらの演出照明には、オブジェは背後に設置された250Wハロゲン投光器(RGBカラーフィルタ付、ノンフィルタ)23台(写真2)を調光メモリー操作卓(点灯、変更時間、シーンの設定変更可能)にあらかじめ設定した16シーンの点灯状態を繰り返し、調光演出を行う。16シーンのパターンは通常時とイベント時の2種類を設定し、手動の切替スイッチで変更する。

西側オブジェ「オーロラ」(写真3)は、天空を彩るオーロラをモチーフにしたもので、アルミ製「結晶」の集合体を波状に動かす。これをオブジェ直下に設置した250Wハロゲン投光器(RGBカラーフィルタ付)30台(図3)を調光操作盤に設定した8シーンを繰り返し、光の粒がきらめく「オーロラ」を創り出している。

音と光の演出の始動・停止は、週間のタイムスケジュールにより、自動的に行われる。

4. おわりに

都市環境の様々なシーンの中で、光の演出性が求められている。今後はシステムと連動させた照明演出が増えていくと思われる。今回の照明演出は、その一例として参考になるとと思われるので紹介した。

(写真1)

(写真2)

(写真3)

(写真4)

Lighting design of Ohmachi shopping arcade, Kihachirou Miha
ra, Tkashi Kato, Seiichirou Sawada, Shigeru Shibazaki, Ichirou
Sasaki, Fumio Yuza, Akiko Kamatani.